

参加された皆さまの発言を尊重して、修正せず当日発言された内容を掲載することを基本にしていますが、下記のとおり掲載にあたって配慮を行っています。

- ・ 発言者については氏名を記載せず、北海道庁職員については北海道庁と、NUMO 職員については NUMO と、ファシリテーターについてはファシリテーターと記載しています。
- ・ 個人名の特定につながり得る発言等、文書として公開するに当たって配慮が必要な部分については、一部加工しています（「〇〇」と記載）。ただし、北海道庁職員、NUMO 職員、ファシリテーターの氏名が、発言中にある場合は、そのまま記載しています。
- ・ 記載することで発言の内容がわかりやすくなり、かつ発言中の議論に影響を与えないものについては、一部加工しています。

神恵内村 対話の場（第5回）会議録

1. 日 時：2021年12月9日（木）午後6時30分から午後8時38分

2. 場 所：神恵内村漁村センター

3. 会議録：

（1）開会

○NUMO

お晩でございます。NUMO 神恵内交流センターの小野寺です。それではお時間になりましたので、第5回の神恵内村対話の場を始めさせていただきたいと思います。本日はお忙しいところ、夜分遅くにお集まりいただきまして、ありがとうございます。早速ですが、ここからは大浦さん、佐野さんをお願いしたいと思います。

○ファシリテーター

皆さん、どうもこんばんは。お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。今日も司会と進行を担当させていただきます。私、大浦と、

○ファシリテーター

佐野です。

○ファシリテーター

二人で今日も進めさせていただきます。よろしくお願ひします。なんかずっと暖かいですね、気持ち悪いぐらい暖かいですね、こんなに雪のない12月、こんなに風のない12月って僕もあんまり経験がないですけど、世間話してないで始めましょうか。

それではですね、いつも一番最初にお話しさせていただきます私達の進め方に関する今までの在り方、どういう風にしていくか、ということです。（次お願ひします。）

本日のメンバーですね。今日来ているのが僕と佐野さん。あとテーブルに皆さん方の対話のお手伝いをさせていただきますファシリテーターの人が入ってくれています。テーブルで担当してくださる方。この方々が担当して下さいます。もしも自己紹介が終わってなければ、後で時間として自己紹介してください。この4人が皆さん方の今日の進行のお手伝いをします。あとテーブルには何名か技術的な説明とかしてくれる技術系のスタッフの方が入ってくださっています。この方々が技術系のスタッフの方で、後で技術系の問題を扱いますので、その時にお話をしてくださると思います。あと皆さん方の記録を手伝ってくださる方がいらっしゃいます。この方々が皆さん方の記録を手伝って下さいます。あとは事務局としてNUMOの皆さん、それと村役場の方、経済産業省の方、それと北海道庁の方でやっております。あと中継のスタッフということかな。あとNUMOのスタッフもいるね。NUMOの神恵内の事務所の人たちもいてくださいます。ということでやらせていただいております。全然紹介してもらえなかった人とかいますか？僕の存在は無視されたとかっていう人はいませんか？スタッフなんだけど、いいですかね。大丈夫ですかね。はい、では次行きましょう。

今日の流れですけども、今お話ししています。ファシリテーターの立ち位置の確認をしてから約束事をお話して、幌延の話だとか運営委員会の話だとか前回の振り返りだとかということを見せていただいて、今日の問いかけに入ろうと思っています。(次お願いします。)

すいません、しつこいんですけどもファシリテーターの立ち位置をもう一度確認してから始めたいと思います。(次お願いします。)

私たち、僕の所属しているNPOのモットーですけども、科学技術をよく知り、正しく恐れることが役割として考えております。非常に大事なことで、あらかじめ答えが決まっている場には関わらないことにしております。例えば、いま文献調査をやっていますけども、この後、次行く概要調査だけ？概要調査に行くのが決まっています、とかね。そうなるに決まっています、とかというのであれば僕たちはそういう場には関わりませんし、「何とかみんなが概要調査を『うん』と言ってくれるように話を誘導してくれよな」という、そういう依頼も受けないという姿勢で、一番最初に村長さんとかとお話をして、その了承をいただいてからやっておりますし、今も変わっていません。私たちは一体誰のためにいるのか、ということですが、3つのためにやっております。ここにいる皆さん方のため。これはもちろんそうですね。それと、神恵内に心を寄せてくださっているいろんな方がいらっしゃいます。カメラの向こうで、今中継を見てくださっている方もいらっしゃるでしょう。新聞の報道とかを心配してくださっている方もいらっしゃるかもしれませんし、皆さん方の離れた所に住んでいるご家族もいらっしゃるかもしれませんね。そういうような方々も、私たちにとっては大事な方々です。それと、なにぶん地層処分が始まってしまっ、もしもどこかでやると、それが10万年もの間、地下で放射線を出し続ける可能性がある。つまり、この地層処分という事業は今の世代だけじゃなくて、将来世代のことも考えて進めていかなきゃならないんだらうなと思って進めさせていただいております。(次お願いします。)

約束といたしましては、これ一番最初に皆さん方とお話しして決めさせていただきました。できるだけ穏やかに、皆さんから幅広の意見を出していただきたいというのが私たちの願いです。この場で言い争いだとか分断だとか、村の中で軋轢が生じるようなことは避けたいと思っております。

ます。(次お願いします。)

ですので、約束事としていくつかありますけども、お互いの意見にちゃんと耳を傾けましょう。人の話をよく聞きましょう。それと、あまり話が長すぎたら途中で止めちゃうかもしれませんが、そこはいろんな方のお話を聞くためということでご了承いただければと思います。それと、「お前の言ってること違うんだ」と時々言いたくなりますけども、人の話を否定する場ではなくて、自分の意見を積極的に言ってあげてください。「あなたはそういうふうに思うかもしれないけども、僕はこう思う」、無理に否定する必要はないと思います。ここで話された内容、いろんな話が出てくるので、どこかで「今日どんな話が出たの?」と聞かれるかもしれません。出た話については、当然外でお話ししていただくことは構いませんが、「誰が何を言ったのか」というのはお話ししないようにしましょう。それは先ほどの分断の話で、「あいつ、ああいうふうに言ってたんだよね」となると分断が生まれかねないのでそれを避けるためという理由でした。

進め方としては、場のルールとしてはこういうふうなルールで始めて今のところやっていますが、この方法それでよろしいですか? 気持ちが変わったとか、やっぱりこうすべきだとかいうのがあれば変えますが、ご異存がなければ、そのまま先に進めたいと思います。それでは、今日よろしくお願いします。

(2) 前回の振り返り、運営委員会からの報告等

○ファシリテーター

それでは、幌延に見学に行ってまいりましたので、そのご報告をお願いします。

○NUMO

それでは、先日行いました幌延の視察につきまして、NUMO 神恵内交流センターの紫藤から 10 分ほど時間をいただきまして、皆さまに報告をさせていただきたいと思います。お手元の資料の説明の前に、視察見学会の概要について簡単に報告をさせていただきます。

11月25日、26日の2日間、対話の場の委員の方5名、あと村役場の方3名、ファシリテーターの方3名と、事務局としてNUMOの職員が2名で参加をしております。25日の日は、幌延にあります深地層研究センターを見学しまして、26日に稚内市内の貸会議室をお借りして、振り返りの勉強会を開催いたしました。皆さん、新聞等の報道でご覧になられた方もいらっしゃるかと思うんですけども、11月25日(正しくは15日)にこの視察の中止を求める要請文が送られて参りました。これは、幌延の研究センターがなし崩し的に処分場になるのではないかと、そういったことを心配されていていらっしゃる方がいまして、その団体の方からこの要請文をいただきました。当日センターに到着した時に、その文献調査に反対をする旨の内容を含んだ横断幕を数名の方が掲げていたという状況でございましたが、視察のほうは無事に開始をされました。

こちらの写真は、施設の会議室で研究の概要の説明を受けたところの写真になるのですが、冒頭、研究センターの所長さんから歓迎のご挨拶をいただきました。その中で、文献調査を受け入れていただいた神恵内村の方々に敬意を表したいというお言葉をいただきましたので紹介させて

いただきます。

冒頭の歓迎のご挨拶の後、副所長さんから研究の概要説明をしていただきました。その後、このように地上施設を見学したりとか、地下の施設を見学しております。こちらが2日目、稚内市で行いました振り返り勉強会の様子です。この画面のほうに映っておりますが、今日も来ております NUMO 技術部の山田、窪田、兵藤の3名、あと前回の対話の場に来た、加来の4名がリモートで皆さまの質問に対して答えたというものでございます。

お配りしました資料2をご覧いただきたいと思います。こちら幌延見学振り返りシートと書かれておりますが、まずは、そもそも幌延ってどんな施設なのかということ、あまり詳しくご存じない方もいらっしゃるかと思いますので簡単に説明させていただきますと、簡単に言うと地層処分技術に関する研究をしている研究施設でございます。正式名称としては、日本原子力研究開発機構、JAEA と通称で呼ばれているんですけども、その幌延深地層研究センターというものです。日本に2カ所、深地層の研究をする所がございます、一つが幌延で、もう一つが岐阜県の瑞浪という所です。幌延が堆積岩の地層を調べる所で、瑞浪は結晶質岩の地層を調べるという、それぞれ性質の違う所を調べているということです。ただ、この瑞浪のほうは、研究が終わってしまって今、埋め戻しに向けた準備をしている段階でございます。(正しくは埋め戻し中の段階)この幌延の施設でも段階的に研究をしております、第1段階これは NUMO の事業で言いますと、概要調査にあたる地表からの調査であります。第2段階というのが穴を掘りながらの調査研究。第3段階というのは、第2段階で掘った穴、縦坑と水平の調査坑道というのを第2段階で掘るんですけども、その調査坑道を使った研究が第3段階ということで、これが2028年まで続く予定になっています。

この第1段階の地表からの調査をする前に、今、神恵内村でやっているような文献調査、これもやっております、幌延町で研究施設を造るといのが決まった後に、いろいろな文献を調べて、どこに造るのがいいかということ調べた上で、今ある場所に造ったということでございます。

ここからは、オレンジの色のところが参加された方から出されたご質問で、その下の白い枠に書かれているのが、当日、JAEA の方、もしくは2日目の振り返りで、NUMO の技術部の者から回答した内容を簡潔にまとめたものでございます。やはり幌延の地下を見た後ですので、「幌延の地下と神恵内の地下はどう違うのか」だとか、「どこが同じなのか」だとか、「神恵内に水冷破碎岩が分布していると言われてるけども、これはどうなんだ」というような質問が多く出されました。時間の関係で詳しく紹介することはできないんですけども、白い枠に書かれているような回答をさせていただいておりますので、お時間のある時にご覧いただければと思います。

(資料の)下のほうに行きますと、委員の方の感想をまとめてあります。いろいろ感想をいただいているんですけども、時間の関係で全部紹介することができないのですが、(ページの)上のほうに感想、「来てみて良かった」、「見れた、説明を受けた、地下の状況を理解できた」ですとか、あとこの2つ下ですね、「今まで幌延の研究施設は漠然としたイメージだったが、もっといろんな人が来てイメージしてほしい」というような、来てよかったというような感想をいただいております。あと、その上に「地層研究に一生懸命取り組んでいて安心、でも地層処分はまだ準備

段階なんだなと思った」(という感想があります)。1日目のセンターの方の研究の概要の説明を、やはりそこで初めて聞くとなかなか半分も理解できないような難しい内容だったので、NUMOとしても何か事前に情報を提供するなど、そういった努力をしないといけないと反省はしたのですが、ただ、研究者の方々が一生懸命取り組んでいるということと、まだまだより高い安全を目指すために、いろいろなことを今でも研究されているんだということを実際に感じていただくというのも、行っていただくひとつの意義なのかなと感じたところでございます。時間の関係で全部は紹介できないのですが、お時間のある時にご覧いただければと思います。

あと、その右のほうにありますのが、幌延の研究施設の広さをイメージしていただくために、グーグルマップで施設と神恵内村の中心部を同じ縮尺で映し出したものを並べたものです。こちらが神恵内村の中心部ですけれども、こちらが幌延の研究施設です。私が今ポインターでくるくる回している所が敷地全体になっています。この下にあるのが、道道の反対側に、穴を掘ったときに出てきた土砂を仮置きしている場所があるんですけれども、これの広さもこのぐらいの広さがあるということで、同じ縮尺で並べてみると規模感みたいなものがお分かりいただけるかなということで、こちらは大浦さんのほうでお作りいただいた資料になってございます。

雑ぱくですが視察会の報告を以上とさせていただきます。

○ファシリテーター

はい、どうもありがとうございました。参加して下さった方で、何か付け足しておきたいこととかありませんか？大丈夫ですか？ここだけはどうしても言っておきたいとかというのはありませんか。大丈夫でしょうかね。どうもありがとうございました。

続きまして、運営委員会の報告をお願いいたします。

○NUMO

事務局のNUMO 小野寺です。資料は3になります。村民アンケートの実施についてということでございます。

前回、第4回で今後3回分のテーマを提案させていただいて、ご了承いただいていますけれども、そのテーマを決める際に運営委員の皆さんから、村民の皆さんの意見もちょっと聞いてテーマを決めたほうがいいんじゃないかというご意見もあったので、事務局のほうで今後のアンケートを実施しようかなということで検討して、先日、第5回向けの運営委員会を実施しまして、この内容でやりたいなということで提案させていただきます。目的としましては、村民の皆さまの地層処分事業に対する疑問や不安を把握して、対話の場におけるテーマや実施内容の参考としますということで、対話の場の事務局が発信者として発信したいと思っています。方法は、無記名で回収できるハガキを全戸に配布させていただいて、それを投函していただいて神恵内の交流センターにお送りいただくということになります。

アンケートの例として別紙につけさせていただいていますが、これはA4サイズですけどもこれをハガキサイズにしてお配りして、これに丸をつけていただいて、あとは自由記入欄に記載いただいて送っていただくということで、実施させていただければと思っています。

○ファシリテーター

以上でしょうかね。運営委員の皆さん、他に何か付け加えたいこととかありませんか？大丈夫でしょうか。運営委員会からの報告は以上です。

皆さん、質問とか大丈夫でしょうかね。（異議なし）それでは先に進みたいと思います。それでは、前回の振り返りをしたいと思います。佐野さん、前回何のテーマでしたっけ？

○ファシリテーター

前回、文献調査とかに関しての文献概要いろんなことについて、皆さんの疑問をテーブルごとに出していただいたという会だったかなと思います。合ってますかね、それで。

○ファシリテーター

そうでしたね。地層処分の概要みたいな説明を、地層処分全体についてのお話をさせていただいて、どんな質問がありますか、どんな疑問がありますか、どんな気持ちがありますか、と伺いました。佐野さん、どんな話がありました？

○ファシリテーター

本当にいろんな、いろんな質問が出てきて、例えばこれとか、「水冷破碎岩が多くて適さないって言うけど、その時でも岩盤掘り進めるの？」という質問があったり、あるいは「致死量となる放射線量はどのくらい？」というような質問があったり、あと何でしょうかね。

○ファシリテーター

放射線の致死量ってどれくらいなのでしょう、という話ですね。

○ファシリテーター

あと、「今の条例で概要調査まで行けるの？核のゴミを北海道に持ち込まない条例がある時点で地層処分できないんじゃない」という話とかも出てきましたよね。あとは何でしょうかね。

○ファシリテーター

あとはあれですね。「六ヶ所に2,500本あるけども、あと何本ぐらい入るの？」とか、ボリュームの話とかですね。あとは、「モニタリングはどうするんですか？埋めた後、埋めっぱなしで、後はもう知らんぷりするんですか」みたいな質問もありましたね。たくさん質問があって、たくさん答えがあって、これらについてはいろんな答えをいただいております。ただ、文献調査についても、今日のテーマについても大事な質問がいくつか出していただいております。これを前回扱っていないので、今日これから文献調査の話をするので、その場で今日これから文献調査のところで、この問題についてはカバーしていきたいと思っています。あと昔、〇〇さんに出してもらったやつで今日に関わりそうなものとしてあるとしたら、ひょっとしたら活断層の話とか今

日は扱われるかも、ちょっと話題が出るかもしれませんね。

○ファシリテーター

活断層の危なさ伝わっていないんじゃないとか、神恵内の近くに活断層があるよね、という質問でしたね。

○ファシリテーター

この辺は今日扱うことになるかもしれませんね。あと、村おこしの提案とかいただいていますけども、またこの後、今日ではないんですけども、後日まちづくり、村づくり、村の将来について皆で考えるみたいな場を一回取りますので、そこで扱えればなと思っております。

というふうにやろうと思います。ということで、前回たくさん地層処分全般について幅広のご意見とかご質問を伺えたところですが、その中で、今話題があった道の条例についてのQ&Aで、この時は経済産業省さんからご回答いただいていたんですけども、今日道庁さんが来てくださっておりますので、道庁さんの見解はどうなのかということで、今日ご説明をされるということなので、ご説明いただければと思います。

○北海道庁

はい、北海道庁の環境エネルギー課の川畑と申します。今日はオブザーバーとして参加させていただいている私どもに、こうした発言の機会をいただきまして感謝を申し上げます。また、対話の場に参加されている皆さま、それからファシリテーターの皆さまにおかれましては、こうした地層処分、それから文献調査とまちづくりなどに関して、毎回活発なご議論がなされていることにつきまして、敬意を表させていただきます。

今、大浦さんからもお話があったように前回の対話の場において、皆さまから道の条例に関し、いくつかご質問があったと伺いましたので、一つ、道の条例の内容、それから道の考え方についてご説明をさせていただきたいと思います。座って説明させていただきます。

資料はお手元にA4で、今映っているものが上であって、下に道の考え方について、というものがある資料がございます。今、資料にはないんですけども、この条例が制定された経緯について、かいつまんで説明をさせていただきます。非常に歴史が長いので、本当に、かいつまんでの説明になります。昭和60年の11月に遡るんですけども、当時の動力炉・核燃料開発事業団、いわゆる動燃と言われていた団体でございしますが、放射性廃棄物を持ち込まない深地層試験場、深い地層の試験場ですね、幌延のような深地層試験場と高レベル放射性廃棄物の貯蔵プラント、この2つの施設からなる「貯蔵工学センター」というものの計画がございまして、その立地環境調査というものを幌延町において昭和60年に開始して、昭和63年にはその調査結果というのが公表されております。こうした中、平成2年なんですけども、道議会におきまして「貯蔵工学センターの設置に反対する決議」というものが可決されまして、平成2年の8月ですが、当時の知事、横路知事でございしますが、知事が国などに対しまして、計画の白紙撤回を申し入れしております。その後いろいろございまして、平成10年にまでいくのですが、10年の2月でございまして。当時

の科学技術庁のほうから道に対しまして、この貯蔵工学センターという計画を一旦取りやめると。取りやめて、新たな提案として幌延町において深地層研究、深い地層ですね、深地層研究を実施したいという申し入れがございました。道では庁内で検討委員会も設置して、また専門家による懇談会も開催してご検討いただきまして、平成12年になります6月に「幌延町における深地層研究計画に対する基本的な考え方」というものを取りまとめております。こうしていろいろな経過を経まして、先ほどちょっと幌延視察の振り返りのところでご説明にもありましたけども、幌延の深地層研究の受入にあたって、なかなか道民の皆さまの中に道内での処分場の建設につながるのではないかと、こういった懸念とか不安があった中で、この特定放射性廃棄物を道内に持ち込ませないための担保措置といたしまして、道議会での議論を踏まえて、平成12年10月になりますが、道議会に「北海道における特定放射性廃棄物に関する条例」というものを提案させていただき、可決成立いたしました。それが今スクリーンに映し出されている条例でございます。以上、制定の経緯でございます。

次に、条例の内容について簡単に説明させていただきます。この条例は、一般的な条例とは異なりまして、具体的な義務付けなどを行うものではない、いわゆる宣言条例というものになっております。この条例の対象としておりますのは、この条例の本文の3行目になりますけども、「一方、」以下にあります、「発電用原子炉の運転に伴って生じた使用済燃料の再処理後に生ずる」ものなどの「特定放射性廃棄物」でございまして、例えば原子力発電所で発生する使用済燃料、そういうもの自体はこの条例の対象とはなっておりません。また、この「特定放射性廃棄物」については、「現時点では、その処分方法の信頼性向上に積極的に取り組んでいるが、処分方法が十分確立されておらず、その試験研究の一層の推進が求められており、その処分方法の試験研究を進める必要がある。」としております。その上で、この条例の最後の段落になるのですが、「こうした状況の下では、特定放射性廃棄物の持込みは慎重に対処すべきであり、受け入れ難いことを宣言する。」というふうになっております。以上が道の条例に関するご説明になります。

次に、文献調査に関する道の考え方についてご説明をいたします。道では現在、幌延において深地層研究を受け入れまして、国の原子力政策に協力をさせていただいているところでございます。先ほどご説明させていただいたとおり、その受け入れにあたっては条例を制定してございまして、道といたしましては、道内の全ての市町村にこの条例について遵守をしていただきたいと考えているところでございます。また最終処分法では、文献調査については知事の意見を求められることにはなっておりませんが、文献調査は最終処分場の建設地選定のプロセスの最初の段階であり、神恵内村さん、それから寿都町さんですが、引き続きこの条例の遵守、それから慎重な対応についてご理解をいただきたいというふうに考えてございまして、対話をさせていただきたいと考えております。

これも報道等でもいろいろお聞きになっていると思いますが、道といたしましては、文献調査終了後、今、文献調査が進められてございまして、まだ結果も出ていないですけど、その調査結果が出て、仮に概要調査に移行しようとする場合には、今ご説明させていただきました条例制定の趣旨を踏まえて、現時点で反対の意見を述べる考えでございまして、

説明は簡単でございますが、以上でございます。本日も説明している内容につきましては道の

ホームページにも掲載されておりますので、そちらについても是非ご覧いただければと思います。
以上でございます。

○ファシリテーター

はい、どうもありがとうございました。それでは、今日のテーマ、文献調査の話に入ろうと思います。この後、皆さん方とテーブルワークに入ろうと思います。

○NUMO

ここからはマスコミの方々は退場していただくということですね。

(3) グループワーク（映像のみ公開）

(4) グループワークにおける状況説明

○ファシリテーター

時間的に押してきてます。もう手一杯ですという方は、ここで帰っていただいて構いません。構いません、という言い方でいいんだろうかと思って。時間大丈夫ですか？あと5分ぐらいで終わりますけども、よければここでご退席いただいて構わないので。ただ振り返りをするだけです。

それでは振り返りを始めようと思います。今中継を見てくださっている方もいらっしゃると思うので、何をやっていたのか分からないと思うので、簡単に説明をします。誰か手伝ってください。

神恵内の辺りの白地図を用意して、この白い地図に神恵内周辺の地質を重ねるという作業を、今日参加している皆さん方に手作業でやっていただきました。狙いは、神恵内には一体どんな地質があるのかということをもみんなで考えていただくということと、文献調査はどんなことをやっているのかということについて体験していただくということを狙いに、この二つの図面だとか、あるいはこういう別の地図というものから一つの図面にまとめてみて、こうやって調べるんだね、という体験してもらおうということを作業としてやっていただきました。

という作業をやった後に、みんなでいろんな質問を出していただいて、実は付箋はたくさん出たんですけども、時間をかけて丁寧に説明したら、あまりたくさん質問について答えきれませんでした。どんなものがあつたのかをちょっとご説明します。最初に、「神恵内の辺りには実は水冷破碎岩という石が広く分布しています。この水冷破碎岩はどうやってできたんですか？」ということについて、でき方だとか性質について NUMO の専門の人から説明を受けました。いい？間違つたこと言っていない？NUMO の専門の人から説明を受けました。その NUMO の専門の人から水冷破碎岩について説明を受けたら疑問が出てきて、どんな疑問が出てきたかという、「豊浜トンネルが水冷破碎岩できてますよ。豊浜トンネルの辺りの地質が水冷破碎岩という地質でできてますよ」と言われた時に、平成8年に豊浜トンネルで崩落事故があつたんですけども、その事故の原因に応力解放という言葉が出てきました。その応力解放ということが、水冷破碎岩という所で応力解放があつたということが事故の引き金として大事ですよ、という説明があつたので

「応力解放って何だ？」ということについて質問があったので、応力解放ってどうやって出来たんだということについて説明がありました。あと、その中で皆さんに先ほど地質図を見せてもらいましたけども、「地質図って随分山の奥のほうまで地質が入ってるんだけど、これどうやって調べたんですか？」という質問がありました。その質問に対しては、実際に人が山の中に入って、川の中に入って見えるものを見て、つないで地質図を作ってるんですよ、という説明がありました。こういう説明を聞いていく中で、やっぱり地質についてもっと知るべきなんじゃないか、ちゃんと皆さんが知るべきなんじゃないかということで、「専門家を呼んで勉強会をやったほうがいいんじゃないですか」という提案をしていただいた方もいらっしゃいました。

大体こんなようなお話だったと思います。皆さん、いいですかね？いいですかね。大体このようなお話で、実は今日扱いきれなかった質問については、次回以降扱う予定をしております。ということで今日のお話は全体としてこういうことでした。よいでしょうかね。

○NUMO

次回の公開方法は、

○ファシリテーター

今、公開方法、今回は冒頭のところをお話ししていただいて、次もグループワーク入れると思いますけれども、グループワークのところを非公開にして映像だけ公開になっています。非公開にして、最後またもう一度公開に戻すという方法をやっていますけども、同じやり方でいいですか？もうちょっと公開度を上げるだとか、あんまり聞いて欲しくないとかあれば変えます。特にないですか？いいですか？じゃあ同じ方法でいきましょう。

では本当にすいません、時間を押してしまいまして申し訳ありませんでした。今日の第5回の対話の場をこれでもって終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○ファシリテーター

ありがとうございました。

○NUMO

すいません、事務局から、〇〇さんから資料をお預かりしていますので、皆さん帰りにお渡ししますのでお持ち帰りいただければと思います。よろしくお願ひします。

○ファシリテーター

皆さん、良いお年を。

○ファシリテーター

皆さんどうか良いお年を。お気をつけてお帰りください。